

---

# 聖闘士deポエム

Glaray

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

聖闘士deポエム

### 【Nコード】

N6896Y

### 【作者名】

Glary

### 【あらすじ】

聖闘士星矢のキャラを題材にして作ったポエム集みたいなものです。

気が向くままに投稿するので、たぶん不定期更新となります。

内容的には、聖闘士星矢を知らなくても解釈が出来たりするようになっているので、星矢ファンでない人も気が向いたら是非見てみてください！！！！！

花が散ったなら…

はい、「聖闘士 de ポエム」、始めました。

これは私の思いついた、聖闘士をネタにした詩を書いていくコーナー（？）です。

物好きな方、駄文で良ければ是非見てください。

もし、「冥闘士とか海闘士をネタにしろ!」という意見・要望などございましたら気軽に言うてください。

採用する…かも知れません。

さて本編です。

今日のは結構前に思いついたやつです。

誰のことなのか… すぐ分かりますよね? (笑)

「花が散ったなら…」

死は永遠なのか

いや、それすら変化の一つに過ぎない

生は虚しいだけなのか

いや、それを語れる程分かりきってはいなかった

数珠を一つ爪繰れば  
塵と消えよ、我が煩惱の犬  
今こそ歩めようか、  
光ある寂静の世へ

ああ、私の目に  
白き花が散り初めるのが見える…

もう一度…

今日のはポエムってか若干リリックっぽいかも。

「もう一度…」

傷ついた翼では

目指していた明日までは飛んでゆけない

視界が涙で閉ざされている

もう、立ち上がれないんだ

失くすものなんかないと 強がっていた昨日は

どこに行ってしまったのだろう

一人 冷たい夜の中うなだれている

残り火も燃え尽きて 冷たい中 一人…

聞こえてきたのはあの日の歌

あなたの声

ひびの入った心を埋めてくれる

そうだ、思い出したんだ

自分が信じられるもの

全てを敵に回しても

あなたを信じている俺 それだけは敵じゃない

もう一度 拳を握りしめるんだ  
もう一度 力を振りしぼるんだ  
神だつて敵に回しても

あなたを信じている俺 何も怖くはないはずさ

天界編序奏とかMAKE-UPさんの「Try Again」とかを思い出しつつ書いてました。タイトルもそれっぽい感じでしょう？（笑）

もちろん星矢をテーマにしました。  
まあありそうなポエムですけどね。

ところでなんですけど、ミノスについてのポエムを作ろうとしたら、どうしても某メタルバンドの歌詞っぽくなってしまっただけ…（汗）「情熱のゲームも終わりだ」とかいつて。知っている方。そうですあの曲です！知らない方、興味があればググってみて下さい。多分「情熱のゲームも終わりだ」で出ます（笑）。

## Mirror Dimension

今回ののは結構シリアス系です。  
舞台「教皇の間」ということで。

「Mirror Dimension」

鏡は碎け散る

迷宮は消え去ったのだろうか

私の「真」は碎けてはいない

聖性が邪悪か

未だにそれは分からないけれども

涙を流しているその訳を教えてください

それとも お前が私自身だから

答えられはしないのか？

私は仮面を二重に被り

己自身を見つめている

無限の回廊に迷える己が見える

眼を閉じたなら

狭間に潰れそうなきが見える

消え去る事が浄化になるのか

贖罪とは何なのだ

答えてくれる鏡よ鏡

お前はもういないのだな

善悪の狭間に悩めるアノ人を題材にしました。

実はこれ改変版で、改変前のものを書いた紙があったのですが、どっか行った+その内容があまり思い出せないので雰囲気(?)を頼りにほぼ一から作り直しました。

その紙には他にたくさんポエムが書き留めてあったので、なくして残念です…

## 凍り付いた記憶

雪の降る寒い季節となつて参りました。  
今日のはそれを思いながら作つてみたやつです。

「凍り付いた記憶」

目を凝らしても 其処に貴女の姿を認められない  
光の一筋さえ届かない深みの内  
思い出は 沈められたんだ

けれど 消えはしない

色褪せはしない

凍り付いたあのときの中

花は散らないままで

美しさを留めたままでいるのだから

俺がすがりつくのは 今という時じゃない

氷海の底 永遠に行つてしまったあの瞬間

消えはしなかったもの

色褪せはしなかったもの

凍り付いたあの時から

それよりずっと前から抱いていた

融けた氷のような俺の心

俺がすがりつける 自分の強さなどない

季節の中 置き去りにされた夢幻（ゆめまぼろし）

マーマへの思いを断ち切れないでいる氷河をテーマにしてみました。

氷河はマザコンだマザコンだと言われていますが、私は氷河とマーマの話好きなんですよね。

## Stand By Me

天醜星デッドリービートルさんの技名をなんとなく使えそうだったので拝借しました。

…が、内容が全然デッドリービートルさんじゃない。

まあ、アノ人ポエムにするにはかなりきわどいし…

それと、同名の映画や曲名とも一切関係ありません。

「Stand By Me」

死した夜の静寂に響き渡るのは

光の遠のいて行く音

にわか雨 去った後の水溜まりに

俺が翳<sup>かげ</sup>りを落としている

ふと 俺の鏡像が揺らぎ出す…

眠っても あるのは空虚な時間だけ

夢は 俺を見捨てて行ってしまった

眠る時 俺を抱くのは孤独に満ちた闇

あの温かく燃え続ける愛は ここまで照らしてはくれないのか

貴女が俺の傍にいてくれたなら

幻影でもかまわない

貴女という存在を 俺の近くに感じられたなら

…って、これもはや冥闘士ですらなく聖闘士ですよね。  
「貴女」ってアテナだし…

でもこれ、主人公誰なんだろう。

## Galaxy Mythos

今日は突然何かが降りてきたようにスラスラと書けちゃいました！  
「聖闘士星矢のテーマ」みたいな感じです。

「Galaxy Mythos」

俺は守護星を凍て空に見つける  
遙か時空の彼方 燃え盛る命が  
俺の鼓動と響き合う

宿命に引き寄せられて 出会い別れる  
二百億年 その始まりからずっと

果てしない夜の中に彷徨う  
運命フレイトの女神達の紡ぐ糸 俺の指先に絡みついた  
未来も過去も手繰り寄せて  
手にしたものは 守りたいこの夢

俺達の創り出す銀河ギャラクシーミュトスの神話  
闇と永遠を貫いて輝き出す  
終わることのない銀河ギャラクシーミュトスの神話

俺達の中 燃え尽きはしない炎 - 宇宙の欠片

なんか、中学校の合唱曲に「COSMOS」っていうのがあったの思い出しました…  
あれはいい曲だったなあ。

## 一掴みの灰

ラブ系のポエムにしようとしたら、若干それました(汗)：  
一輝をテーマにした事だけは確かです(笑)。

## 「一掴みの灰」

己の運命を決める神などいないと言い切ってやろう

行き先はこの手で切り開いてきた感触があるから

絶望は俺を殺すことなど出来ない

それさえも俺の原動力に変わるだけだから

君は 俺の事を穢れていると言うか？

俺の存在など 取るに足りないと言うか？

ならばそれを受け入れよう

煉獄こそ俺の居場所

けれど忘れないでくれ

君の体滅びようと

輪廻の果て 君の姿が変わり果てても

その魂を見つげ出し

守れるのは俺だけなのだ

獄炎に果てる度 俺は蘇る

この魂 力 輝きを増して

一掴みの灰から 不死鳥は蘇り羽ばたく  
翼に宿した炎で地獄までも燃やし尽くしてやる

決意の強さとか愛とかを描写しようとしたんですが、どうやら失敗（？）したっぽい。

ぶっちゃけ書きたかったのは第二聯と第三聯だったんですよ…（笑）

だったら一輝じゃなくてもいいじゃんてカンジですがね。

## アイデア

滅びゆく中に見いだせる「美」について、アフロディーテを主人公にして書いてみました。

### 「アイデア」

#### 闇と光

天と地の狭間に  
ナルシッソス  
水仙は枯れ果てて  
アマランス  
不凋花は色褪せる  
ヴィーナス  
金星は堕ちて  
アレク  
火星は燃え尽きる

#### 美のアイデアよ

汝こそ永遠の力なれ

詩人達よ

死に眠りに見いだせるだろう

戦士達よ

瞬きの内に華々しく散るがいい

我が薔薇よ

お前が私の葬列となってくれ

黄泉を下る私の魂を

輝けるあの世界へ導いてくれ

## M i r r o r D i m e n s i o n ?

個人的に気に入っていた「Mirror Dimension」の別バージョンです。

最終的に、主人公は悪の道へと進んでいく感じになります…

「Mirror Dimension」?

許されざる自意識が高まり  
私をそそのかす

私は誰だと言うのだ  
象られたのは 神の器か 魔の器か  
選び取れないまま  
魂が揺れ動くだけ

永久に私が押し込められた迷宮  
始めも終わりも無く  
際限なき深淵からの導きの糸  
辿って行けずに  
未だ此処で彷徨うだけ

鏡像なのか 実像なのか  
知り得ないのならば  
愛と偽善を 迷わず壊してしまえば良かったのだ

許されたる自意識よ  
私をもつ一度そそのかしてくれ

## Spectral Hour

前回の投稿からちょっと間が空きました。久しぶりです。

さて今回は、ハーデス編で冥闘士として復活した聖闘士達の複雑な心情をポエムにしてみました。

ちょっと難解な部分があるかも知れません。後で読んでみて自分でも「…?これどういう事なんだ…?」てなった所があったんです。

### 「Spectral Hour」

陽が地平に落ち 星が輝き始める

この安息が永久のものなら…

須臾の虚像でないのなら

幽冥を月影が撫でている

欲望、悲愴、熱情…満たされて行く時

光ある地上は 幻だと分かってしまった?

今 生と死の狭間に全て浸して 実像を探しに行くよ

青き焰 揺らめいている

冷たい闇を溶かしだしてしまうのか

そして この表情を照らし出さないでくれ

貴女を想い この魂は慟哭しているんだ

この熱き血潮 貴女の元まで流れ出すなら…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6896y/>

---

聖闘士deポエム

2011年12月11日13時46分発行